

# ワカモノクエスト

未来への手がかり

冒険を始めますか？

- ▶はい
- いいえ

地域でつながるワカモノ×NPO インターンシップ  
プログラム2020 活動報告書



仲間を集めてともに歩こう

新しい未体験の世界に飛び込むとき  
 たいせつなのは  
 なかまをみつけて協力し  
 一緒に活動すること  
 歩みを止めずに地域と関わり  
 を続け、これを  
 踏まえて未来に進もう  
 みつけた仲間と成果を  
 出して成長していく  
 それが自身のクエスト  
 うしろには旅の仲間がたくさんいるよ



INDEX

プログラム趣旨 ..... 1  
 団体紹介 ..... 2  
 ワカモノ一覧 ..... 3  
 プログラムの流れ ..... 4-5  
 ワカモノの活動紹介 ..... 6-13  
 成果発表会 ..... 14-15  
 アンケート結果 ..... 16-17  
 サポートメンバー紹介 ..... 18  
 ワカモノへのメッセージ ..... 19

本冊子は、有志のワカモノとサポートメンバーと共に制作しました。  
 主人公は今読んでいるあなた！個性豊かなワカモノ達と一緒に冒険を進めよう！

自ら考え、選ぶことができる力をつけた人材が育つこと

このプログラムは、高校生～大学院生までのワカモノが約半年間、地域のNPOでインターン生として活動します。2014年度より実施し、プログラム7年目となる2020年度は、8名のワカモノと3つのNPO・市民活動団体が参加しました。下記の3つを目的にしています。

- ① ワカモノが自ら考え、自ら学び、自分の道を選ぶことができる力を身に付けること
- ② NPO・市民活動団体の組織基盤の強化
- ③ プログラムを他地域に展開すること

プログラム概要

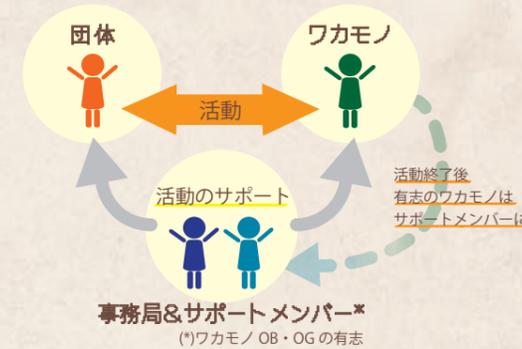
対象：高校生～大学院生（概ね30歳未満） 期間：2020年10月17日（土）～2021年1月15日（金）  
 費用：活動にかかる交通費や食費などは自己負担 ※活動1時間あたり400円の活動奨励金があります。  
 活動先：神奈川県内で活動するNPO・市民活動団体

特色1

ワカモノコースと高校生コースの2つあります。高校生コースは活動時間を短縮したことで、活動と学業との調整をやすくしています。また、継続して活動に取り組めるよう、活動1時間あたり400円の助成を行います。

特色2

ワカモノと団体が活動しやすいよう、事務局及びサポートメンバー（ワカモノOB・OG有志）が活動のサポートをします。



NPOとは？

NPOとは「Non-Profit Organization」の略称で、日本語では「民間の非営利組織」と表現します。株式会社等の「営利」を目的とする組織とは異なり、収益を社会課題を解決するための事業に活用して取り組む組織です。社会の多様化したニーズに応え、社会や地域の課題解決に向け、様々な分野（文化、環境、教育、まちづくり、国際、福祉等）で活動をしています。また、NPOは「産学官民」の「民」の部分の担う存在として地域でも注目されています。最近では「協働」という新しい形のパートナーシップで、NPOをはじめ、企業、学校、行政等と連携する事例が増えています。また、災害などの際にそれぞれの分野で力を発揮するボランティアをコーディネートする役割も、地域のNPOには求められています。NPOのうち、NPO法人は日本全国で5万超の団体があり、コンビニと同じくらいの数なのだそうです。そう考えるとNPOをもっと身近に感じませんか？



2020年度の活動では、3つのNPO・市民活動団体にワカモノの受入先として協力していただきました。本ページでは、団体の受入担当者のお写真と、団体の活動を紹介します。

-  **文化・スポーツ**：文化・芸術やスポーツのイベントなど
-  **福祉**：高齢者・障がい者への健康や自立のサポートなど
-  **まちづくり**：まちの清掃活動、地域活性イベントなど



担当者：大澤 英昭さん



### NPO 法人 アズヴェール藤沢スポーツクラブ

#### フットサルを中心とした地域密着型スポーツクラブ

藤沢市を拠点に、「フットサル」を中心とした地域密着型スポーツクラブとして、青少年の健全育成、地域の方の健康増進、生涯スポーツの普及を目的とした活動を行っています。関東フットサルリーグに参戦している TOP チームを中心に、子どもから大人まで 270 名ほどの方が所属し、フットサルを楽しんでいます。和気あいあいとしたアットホームな雰囲気の団体で、地域活動にも積極的に参加しています。



担当者：小川 優さん



### 障がいのアナ

#### 社会の壁にアナを開けよう！

「違い」の先にある「同じ」を知る。価値観が広がる「気付き」を柔らかく伝えたいと活動をしている団体です。障がいのアナの名前の由来は障がいのある人となない人、さまざまな違いの間にある壁にアナを開けたいという想いが込められています。障がいのアナのHPには、障がいや福祉に関連したさまざまな方へのインタビュー記事やコラムを掲載しています。



担当者：林 純さん



### 認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構

#### 「つなぐ・支える・うごく」 NPO を支援する NPO

私たちは「NPO（非営利組織）を支援する NPO」として、NPO 活動を支援し、藤沢の市民活動を盛り上げるための活動をしています！また、まちづくりには、NPO だけでなく様々な組織が連携することが大事です。推進機構では NPO・行政・企業・学校等との連携を進めるために、まちの活性化事業も行っています。

今年度は、高校 1 年生から大学 3 年生の 8 名のワカモノが活動に参加しました。このページではそんなワカモノたちによる自己紹介と、「最近のニュース」を紹介しています！



**1 上野 蒼依** 大学 1 年  
インスタで見つけた、銀座のうどんを食べに行きたい！  
(好物は寿司)



**2 加藤 涼太** 大学 1 年  
2 か月ぶりのボウリングでスコア 190。  
自然が好きで流木を集めてます！



**3 相原 美月** 高校 2 年  
横浜のアニメイトは私の聖地！  
推しのクリアファイルは使わずファイルしてます。



**4 一ノ瀬 智裕** 大学 3 年  
人と関わるのが好き！  
先日、就活の面接に行くのを忘れてました。



**5 佐伯 皇徳** 大学 3 年  
鉄オタは顔を見ればわかる。  
鉄道が好きだが、断じてオタクではない。



**6 柴田 恵佑** 大学 2 年  
日々、自宅でコーヒーの研究中。  
長後ブレンドを作りたい！



**7 龍野 颯太** 高校 1 年  
「キングダム」を全巻読んでハマりました！  
中国に興味があるが、行くならヨーロッパ。



**8 中村 渚** 大学 3 年  
江ノ島の夕日がお気に入り！  
マレー語を勉強中 (^^) / スラムマップギ



インターン期間中、オンラインで活動する中でもワカモノやサポートメンバー、NPO 団体の交流を積極的なものとするために、2～3週間に一回程度の頻度でオンラインでの定例会を行いました。本ページではプログラムの流れを紹介しています。



## オリエンテーション

初めてのオンライン開催で、全員ドキドキしながら当日を迎えました。まずはお互いを知るために数名のグループに分かれて「他己紹介」をしました。また、これからインターンをしていくうえで「なりたい自分」を想像してもらうために、自分の強みと弱みについて発表をしました。



## ワカモノ定例会 1

NPO について知ってもらうことを目的に、「NPO 講座」を開催しました。前半では、NPO について疑問に思ったことや知らなかったことを深掘りしました。後半では、グループに分かれてテーマにそってトークセッションを行いました。お互いを知ることができる楽しい時間を過ごしました。



## ワカモノ定例会 3

NPO 団体の現状を知ingことを目的に3団体からビデオメッセージで、コロナ渦での活動状況や今後の活動方針、ワカモノにできることなどをお話していただきました。活動中に学んだこと、反省点などを自分の中でしっかりと受け止め、次に向かう姿勢が見受けられました。



## ワカモノ定例会 4

本プログラムの集大成である「成果発表会」について、どのような会にしたいかワカモノ同士で話し合いました。これまでの活動や定例会を通して、ワカモノがお互いを理解してきたためか、役割分担や今後のスケジュールについて活発な意見交換が行われました。



10月

11月

12月

1月

2月

3月



GOAL !

## ワカモノ定例会 2

ワカモノから、インターン活動の様子について報告をしました。また、後半ではワカモノ・サポートメンバー・事務局の交流を深めるために交流会を実施しました。



## 交流会

ワカモノ交流会をオンラインで開催しました。定例会が延期になり、急遽開催となったため、フリートークで実施しました。それぞれの近況報告やワカモノの活動について会話をしました。ワカモノの趣味や人柄などを発見する楽しい会になりました。



## 成果発表会

これまでの活動を振り返り、ワカモノが各々の活動の成果をトーク形式で発表しました。ほとんどのワカモノがこの日に初めて対面しましたが、互いに質問したり、コメントをはさんだり、アドリブも混ぜながら終始、活発な会となりました。



プログラムの様子を紹介してきました。次ページからは、ワカモノが活動を経て何を思い、何を感じたのかを紹介していきます！





うえの あおい  
**上野 蒼依**

活動先：NPO 法人 アズヴェール藤沢スポーツクラブ  
活動分野：文化・スポーツ   
学校：私立大学 法学部 1年生  
主な活動内容：フットサルの練習風景撮影、  
団体紹介動画の作成



かとう りょうた  
**加藤 涼太**

活動先：NPO 法人 アズヴェール藤沢スポーツクラブ  
活動分野：文化・スポーツ   
学校：神奈川大学 経営学部 国際経営学科 1年生  
主な活動内容：TOP チームのマネージャー、  
練習や試合時の撮影



### 関わることで見えた世界

アズヴェール藤沢スポーツクラブでレディースデーとキッズの時間に写真撮影をし、編集して団体のPR動画を制作しました。もともと写真を撮ったり動画を編集したりすることが好きなので、楽しみながら活動していました。写真を撮るだけだったら、隅の方で1人でもできることなのですが、ただ写真を撮るだけでなく、クラブや地域の方々と積極的にコミュニケーションをとるように心がけていました。実際にフットサルに参加させてもらったりもしました。私はこれまで個人競技しかしてこなかったのですが、団体競技に触れて、協力することの大切さや一緒に活動することに楽しさを感じました。

### 仲間との交流

他のワカモノとの交流は、すごく刺激になりました。皆さん意識が高く、自分ももっとNPOとか地域について知らなきゃいけないなと。定例会や会議にはあまり参加できなかったんですけど、LINEなどで気にかけて連絡をくれたり、仕事を割り振ってもらえたり、達成感というか、一緒に活動することが出来てよかったと思います。

### 好きなことを活かしていく

はじめのころは、「これがやりたい！」とか強い動機はなかったのですが、自分の好きなことを活かして地元に関わることができて嬉しく思います。今回、地元と関わる活動をして地元が好きだと改めて感じました。これからも動画編集など、自分の好きなことを活かして、地元のPRなど、地域に関わる活動ができればいいなと考えています。

### 成長に繋がることがしたい

大学での楽しいキャンパスライフを期待していたのですが、コロナ禍でキャンパスには通えず、友達作りも難しい中、学生同士の交流の場が欲しいと思っていました。また、自分の成長につながるような新しい経験をしてみたいと思い、参加しました。

### 「みんなが家族」を意識して

アズヴェール藤沢スポーツクラブで、動画作成のための写真撮影をしました。ただ写真を撮るだけではなく、競技のルールを勉強しながら、どういう写真がいいのか、何を見てほしいのか、などを考えながら撮影しました。また、団体が大切にしている「みんなが家族」を意識し、活動中はあいさつを心がけていました。

### 経験を通して気づいたこと

これまで、自分は選手としてスポーツに携わっていた経験があって、その際に写真や動画を撮ってもらって、引退の時にアルバムやムービーを作ってもらったことがありましたが、その時は知らなかった作業の大変さや、記録することの大切さに今回のインターンでの活動を通じて自分がやる側になってはじめて気づくことができました。

他のインターン生と交流できて、相談できる人や話をする人が増えたことも、この活動に参加して得られたことです。それから、活動中は同年代の人よりも自分より年上の方と接することが多く、人との付き合い方も学べたと思います。

定期的に通うことはできませんが、時間があるときに顔を出して団体さんとの交流を続けていきたいと思っています。コロナ禍で難しいと思いますが、同年代との交流ができる活動があればこれからも積極的に参加したいです。





あいはら みつき  
**相原 美月**

活動先：障がいのアナ  
活動分野：福祉   
学校：湘南学園高等学校 2年生  
主な活動内容：障がいを持っている方へのインタビュー、記事作成



いちのせ ともひろ  
**一ノ瀬 智裕**

活動先：認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構  
活動分野：まちづくり   
学校：慶應義塾大学 総合政策学部 3年生  
主な活動内容：長後商店街の活性化プロジェクト（カフェ経営）の進行やスケジュール管理



### 探して見つけた物語

人のために何かをしたり、人と関わりたいと思って、もともと、別のプログラムで海外ボランティアに参加する予定でしたが、コロナで中止になってしまったので、代わりにできる活動を探していて、このインターンシップを見つけました。

### 苦手に挑戦

障がいのアナさんで活動をしました。障がいを持っている人へのインタビューや、イベントに参加してレポート記事を作成し、ウェブサイトに掲載するお仕事をしました。

私は文章を書くことがとにかく苦手で、今も苦手意識があるのですが、今回の活動でいくつか文章を書かせていただいて、ただ書くのではなく、読み手を意識しながら書くことに挑戦しました。担当の方に言葉遣いや表現のしかたなどを教えてもらいながら何度も書き直しました。作業は大変

でしたが、文章の書き方を学んで、ポキャブラリーも増えたと思います。

### 知らないことをもっと知りたい

今回の活動を通して、障がいを持つ方々に対する印象が変わりました。はじめはどう接していいのかわからず、なかなか話しかけに行けなかったのですが、気さくに話しかけてくれて、私が作っていた壁を簡単に壊してくれました。皆さんとてもやさしくて、私も気張らずにその場に馴染めました。知らないからこそ、知る努力をお互いにするのが大切だと思います。今回私がしてもらったように、これからは自分から積極的にコミュニケーションをとっていきたいです。次は、他の分野の活動にも挑戦してみたいと考えています。知らないことを知って、自分の世界が広がるのは楽しいです。

### どんな人たちと出会うのだろう？

昔からボランティア活動などに参加していましたが、今回も「こんな活動あるから参加してみないか」とお声かけいただいたのが参加のキッカケです。また、このインターンシッププログラムは学生が企画に携わっていて、参加者の対象も学生ということで、そこに集まるのはどんな人たちなんだろうと気になったことも動機のひとつです。

### 意識し、考え、自分を変えていく

長後商店街協同組合さんと協同して長後商店街の活性化をするプロジェクトをしています。インターン活動としては、プロジェクトの進行やスケジュール管理などを行い、組織論やリーダーシップについて学びました。ワカモノによって長後の方々の力を集める、チームマネジメントが活動のメインでした。

僕らの活動は様々な人の協力があってできているというこ

と、そして自分の“肩書き”を意識しながら活動していました。インターン生として、組合の一員として、大学生として、など場面によって異なる自分の立場を常に考えながら行動するよう心がけていました。また、自分たちは大学生という肩書きから広告塔になったものの、活動の主役は長後商店街の方々だということも意識していました。

### 一つの物語を終えて

ワークフローの管理ができるようになったと思います。誰がどの仕事をいつまでにやって、その仕事をするために事前にどんな準備が必要なのか、今まではそれほど重要視していなかったので。今回の活動で、NPOの特性というか、価値観や行動基準を知ることができました。活動の一環でカフェの経営をはじめ、今までは空想上のものだったことが現実になってきました。インターンは終わっても長後の活動は続くので、より気を引き締めていかなければと考えています。





さえき こうとく  
**佐伯 皇徳**

活動先：認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構  
活動分野：まちづくり 🍄  
学校：慶應義塾大学 環境情報学部 3 年生  
主な活動内容：長後商店街の活性化  
プロジェクト（カフェ経営等）のリーダー



しばた けいすけ  
**柴田 恵佑**

活動先：認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構  
活動分野：まちづくり 🍄  
学校：慶應義塾大学 総合政策学部 2 年生  
主な活動内容：長後商店街の活性化プロジェク  
トでの連絡調整・カフェの経営



### 時代にあった場所づくり

大学の授業で「自分で地域課題を見つけて解決に取り組む」というものがあり、以前学園祭実行委員会でお世話になった長後商店街の活性化をしようと思っていたところに、地域活動を実践できるインターンプログラムがあると聞き、参加しました。目標として、昔盛り上がっていた昭和の商店街の雰囲気ではなく、新たな時代にあった、魅力的な街、空間を作っていくことを目指して活動しています。

### 地域と関わって得られた成果

チームのリーダーとしてプロジェクトをまとめることが自分の役割でした。活動中は、用事がなくてもできるだけ商店街に足を運ぶようにし、店主さんたちとコミュニケーションをとることを心がけていました。おかげでスムーズに活動ができています。

はじめは、商店街や地域の人は現状を受け入れ、自分たち

の代で終わってもいいと思っているのだろうというイメージがあったのですが、全くそんなことはなく、皆さん「何とかしなきゃ」という気持ちや「どうしたい」というビジョンを持っていることがわかりました。

カフェのオープン、プロジェクトの一部にすぎませんが、目に見える形で一歩前に進んだことは、インターン活動の成果だと思います。

### 将来に生きる出会いと経験

他のインターン生との交流を通して、自分にない価値観や新鮮な意見にふれることができました。普段、自分の周りにいる人たちの意見はなんとなく自分と似たり寄ったりな部分があると思うので、違う視点からの考え方を学べたかなと思います。この地域活動の経験は、今やっている就職活動にも活かしています。また、コミュニケーションの取り方やお店の経営など将来に活かせる経験ができました。

### 地域の活性化は面白いことから

生活に身近なコミュニティで活動してみたいという思いがあり、今回のインターンでは、ワカモノならではの視点で商店街の活性化を軸にしつつ、長後地区の活性化のために何か面白いことをしようと活動を始めました。

### できることから自分で

これまで、ボランティアや市民活動を見ていた一方で、そういった活動に自ら入っていくことにためらいがありました。地域活動は普段から仕事をして、地域の人々ともばりばりお付き合いをしている人が休日などにやるものだと思っていて、自分には無理だと、高いハードルを感じていました。実際に参加してみると、もちろん責任はあるものの、自分のできる範囲でできることをすればいいんだと、これまで漠然と感じていた障壁が薄れた気がします。

### 興味は応援につながる

地域活動には地域住民をはじめ、多くの人の理解と共感が必要で、独りよがりな事業は難しいです。例えば「商店街活性化に向けて、カフェを開こう！」というと、多くの人が「なんでカフェを開いたら町が活性化するんだ？」と思うわけです。事業主たちは熱意が先行してしまいがちなので、その思いを誰にでも伝わりやすいストーリーにして説明することが自分の役割だったと思います。彼らの熱意をある種翻訳して、ロジックベースに説明する。大学の友達だったり、地域の方々だったり、興味を持ってきている人に説明するだけでも、興味が具体的な応援につながるがあります。

自分もそうでしたが、地域活動に距離を感じている若者は多いと思います。カフェの経営や長後商店街の活性化を通じて、そういった人々を積極的にまきこんでいく、若者が地域に関わるキッカケを作っていくことができたと思います。





たつの  
**龍野 颯太**

活動先：認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構  
活動分野：まちづくり 🍄  
学校：湘南学園高等学校 1年生  
主な活動内容：パソコン作業・ジャズ  
イベントでのステージ進行補助・会場誘導



なかむら  
**中村 渚**

活動先：認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構  
活動分野：まちづくり 🍄  
学校：神奈川大学 経営学部 国際経営学科 3年生  
主な活動内容：2020 応援団藤沢ビッグ  
ウェーブ関連の事務・イベント企画運営



### きっかけの物語

高校では部活などもしてなくて、何か活動をしたかった時に、以前このプログラムに参加していた姉から勧められて参加を決めました。地域活動と聞いて、インターンというよりもボランティアのイメージが強かったです。

### 変わり始めた自分

活動初日は、団体での活動時に使う名札や、作業内容を記録するための日報作りをしたり、団体が行っているラジオ番組のリスナーへの質問を考えたりしました。アイデア出しに苦戦しました。

また、藤沢駅の駅前広場で行われたジャズイベントにスタッフとして参加しました。交通整理をしたり、ステージのセッティングを手伝ったりすることが主な仕事でした。こういったイベントにスタッフ側で参加することは初めての経験で、とても楽しかったです。もともと恥ずかしがり屋で、人

の前に出て何かすることが得意ではなかったので、そういった機会をなるべく避けてきたのですが、今回イベントに参加して、大勢を相手に活動することや注目されることに、少しは慣れたと思います。はじめて会ったボランティアメンバーたちと、楽しく活動することができました。これからは、人前で緊張しないようになりたいです。

### 地域と触れて気づいた気持ち

今までは姉とか周りの人がボランティアに参加している様子を見ていただけでしたが、今回のインターン活動で地域活動に自分で初めて触れて、自分はボランティア活動や地域活動が好きだなと感じました。

インターンの期間的に自分の予定が思うように合わなくて、多くの活動に参加することができなかったのが残念です。今後も機会があれば地域活動に参加したいと思います。

### 物語の始まり

留学中にカンボジアを訪れたときに、物乞いや働く子どもたちを見て、彼らの環境を変えたいと思い、NPO や NGO に興味をもちました。インターンでは、国際協力をしている団体で学びたいと思っていました。個人の目標はリーダーシップを身につけることで、責任感のある活動をしたかったです。

### 責任感を持った行動で

ふじさわビッグウェーブでオリンピック・パラリンピックを盛り上げるためのイベントの企画・運営やガイドブックの作成に携わりました。

想像以上に、会場も参加者も規模の大きなイベントだったので驚きました。イベントに向けたミーティングではグループのまとめ役をやらせてもらいました。活動中は、目標である「責任感を持った行動」を心がけていました。

定例会では、他のインターン生と交流できて楽しかったです。自分にはない考え方を吸収できました。成果発表会ではたくさん話すことができてよかったです。

### 大切なことは「楽しむこと」

企画を考えるときに、「どうすれば参加者が集まるかな」「どうすれば学びを与えられるかな」ということばかり考えていました。なかなかアイデアが出なかったとき、一緒に企画をしていた方が「自分や参加者が楽しめる」ことを考えていて、「楽しむこと」がイベントを考える上で大切なことだと気がつきました。楽しいと人も集まるし、そこから学びにもつながるんだなって。

活動が終わった後も、ガイドブックのお仕事などを続けさせてもらっています。今後は海外の方や日本に住んでいる外国人の方たちと交流できる活動に参加してみたいです。





ワカモノが制作したポスター

● ワカモノ主体で企画！ ●

成果発表会開催の3ヶ月前から企画をはじめました。成果発表会は、定例会と同じようにオンラインで行うのか、それとも対面で行うのか、会場の確保はどうするか、配信をするのか、配信の形式はどうするのかなどを話し合いました。これらの話し合いはたびたびオンラインミーティングで行われ、ワカモノとサポートメンバーそれぞれの役割に従って企画に尽力しました。

開催概要

日時：2021年3月20日（土）14時～16時  
 会場：オンライン（Cafe Base 長後より配信）  
 内容：ワカモノによるトークショー形式の発表

● 発表会当日！ ●

開催場所は、3人のインターン生が活動した「Cafe Base 長後」の店内スペース。例年通りなら成果発表会は、外部からたくさんのお客さんを招くのですが、今回はワカモノとサポートメンバー、そして事務局のみの集合でした。Zoomによるオンライン配信の形式もここで初めて取り入れました。

会場ではワカモノたちが、それぞれの活動をトーク形式で発表しました。コロナ禍でオンライン活動がメインのワカモノたちでしたが、有意義な体験の様子を聞き取ることができたと思います。発表会当日に初めて対面するワカモノもいたにも関わらず、質問やコメントのやり取りが積極的に行われ、例年より少ない人数でも賑やかに感じられました。成果発表会の2時間は、あっという間に終わったと後で感じるほど充実した会となりました。



配信の様子



集合写真

本プログラムの成果の可視化と、次年度へ生かすため、ワカモノと受入団体を対象にアンケートを実施しました。コロナ禍で活動制限もあり、思うような成果が出せなかったワカモノもありますが、それぞれが貴重な経験を得られたように伺えます。（※）回収率は92.3%です。全体数について、ワカモノはn=8、団体はn=5となります。

## Q. 目標達成率は？

活動前になりたい自分や活動の際に自分はこんな風になりたいという理想を達成できた



実際に計画したものがコロナで延期されてしまった



自分の立てた目標を見失いそうになった



## Q. 同世代に勧めたい？

活動していて楽しかった！こういう活動に興味がある人には是非参加してほしい



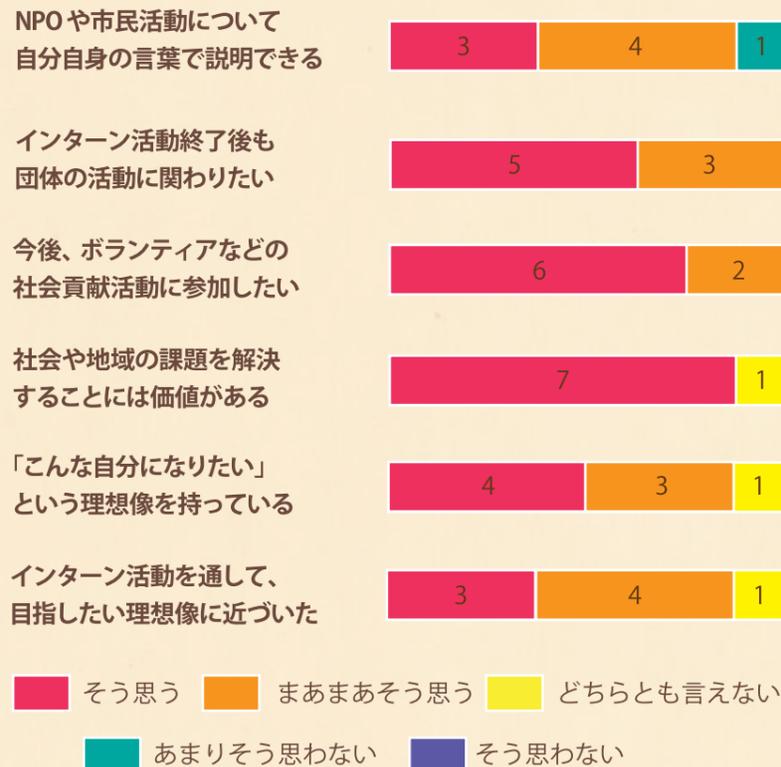
将来について悩んでいる方がいたら、新しい自分を見つけるいい機会になると思う！



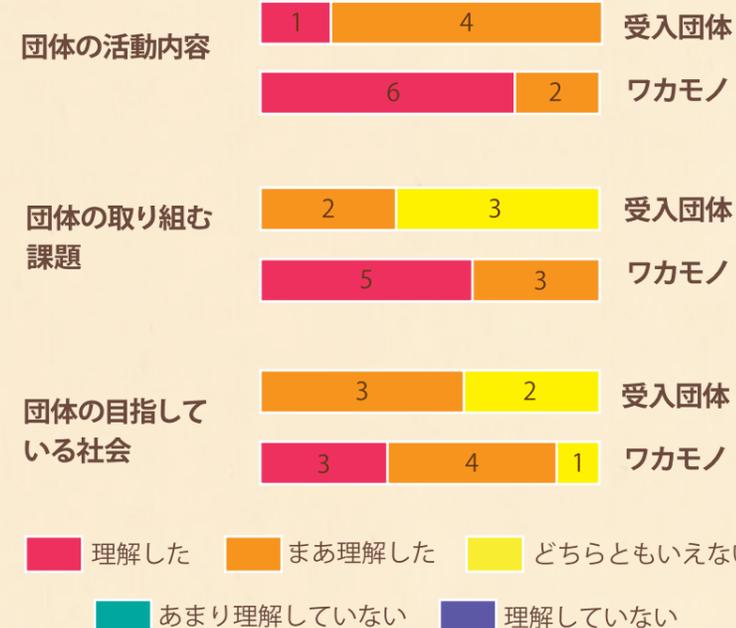
自分の知見が広がり、多くの人とつながることができる。そこで学べることは想像以上です！



## Q. 現在の考えに最も近いものは？



## Q. 活動を終えたワカモノの団体に対する理解度は？



まだまだ成長の余地はあるものの、以前と比べて様々な方と気軽にコミュニケーションを行えるようになったと感じる



オリパラを藤沢のみならず盛り上げていこうという目的のもとで、藤沢市民の方と関わる機会が沢山あった(ワカモノ)

共に活動してもらい、クラブの理念などはよく話をさせてもらいました(団体)

打ち合わせなどを通じて体感してもらえた部分と、企画が延期になったり期間の関係で体感してもらえなかった部分のどちらもあつたため(団体)

今年度のプログラムを行うにあたって、ワカモノの活動のサポートすることを目的に、6人のサポートメンバー（NPOでのインターンシップを経験した有志メンバー）が集まりました。本ページでは、サポートメンバーが活動をした感想を書いてもらいました！



酒井 彩良さん

参加するワカモノにどんな風に成長してほしいのかなど、初めての視点で考えなければなりません。オンライン会議やクラウドファンディングに初めて挑戦し、チームで作上げる大変さ、楽しさ、達成感など、インターン生だった時とは違った学びがありました。



神藤 夏美さん

クラウドファンディングの準備に携わりました。地域の人々から理解を得る難しさや大切さを主体的に感じることでできる貴重な体験でした。この経験を通して、今後も地域と関わる活動がしたいと強く考えるようになりました。自分ごととして、地域の課題に親身に向き合っていきたいです。



金子 智史さん

サポメンとして初めて取り組んだことはクラウドファンディングで、私がしたことはページに載せる文章の作成でした。不安はありましたが、33名の方から275,000円を得る成果を上げたのはかなり嬉しかったです。オンライン活動中心でしたが、成功裏に終わることができて良かったです。



小島 奈々さん

自分達でできることを模索し、クラウドファンディングやオンラインで交流する企画を立てました。全員初めてのことで、戸惑いはありましたが走り出してみるとなんとかなるということを実感しました。最終的にワカモノがそれぞれの活動を楽しんで、成果発表会に臨んでくれて感謝です。



田畑 大地さん

オンライン定例会はネットを挟むことによって参加者同士あまり緊張せず話そうことができ全員のことよく理解できたように感じました。定例会を企画する中で、オンラインならではの問題点が多く苦戦しました。ワカモノはみんな熱心に自分の思いを伝えてくれてとても明るい雰囲気でした。



小山 優子さん

1期生として参加し、それ以降はサポメンの立場で関わっています。今年はコロナ禍の状況をプラスに捉えて挑戦できたことが沢山ありました。サポメンにとっても、この状況下で自分ができることを考え、実行できたことが、これからの自分達の糧となる経験だったと感じます。

認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構  
理事長

てづか あけみ  
手塚 明美



1998年 NPO 法の制定をきっかけに、NPO 支援の在り方を柱に、情報収集と発信を進め、NPO を中心とした非営利組織のマネジメント支援、ソーシャルビジネスの起業支援、NPO と他セクターとの連携支援に取り組んでいる。

2020年度の活動を振り返ると、過去のことを知っている関係者としては、「いつもと違う」と思ってしまいます。でも、かわりを持ってくれたワカモノの皆さんはこれが私たちのインターンなんだと真正面から向き合い、5ヶ月間のインターン生活を満喫してくれたように感じています。

顔合わせからオンラインとなり、食事どころかお茶することもできずの状態、最後まで走り抜けてくれた皆さんの力強さに、負けてはいられないと思った大人は、私一人ではなかったと思います。

「ワークライフバランス」「人生100歳時代」「ダブルワーク、トリプルワーク」など、就業に対する考え方が様々となる時代に入り、私たちはそれぞれの生き方や考え方を受容しながら社会を創っていくという大きな宿命を解いてい

かなければなりません。学習によって得られる知識はもちろんですが、多くの社会経験によって積み上げた経験値は生きるためのソコヂカラになります。

東日本大震災、電力供給不足解消のために計画停電が実施され、街中の電気が消灯されたとき、エネルギーの大切さを実感しました。本年度の経験は、世界を巻き込んだ大きな災害を乗り越えた貴重な体験です。今回、「なぜ?」「どうして?」と疑問があり、「なるほど」と納得できたこと、どうしても納得できないことがあったこと、忘れたいこともありますが、忘れずに今後の社会生活に活かすことができるのではないかと思います。

ご一緒できたことに心より感謝いたします。ありがとうございました。またいつかお会いできる日を楽しみにしています。

クラウドファンディングに挑戦！ \ 33名の方から275,000円のご支援がありました！ /



新型コロナウイルスの流行の影響もあり今年度の活動を行うにあたって資金調達が大きな課題となりました。そこで、資金の一部をクラウドファンディングにて集めることにしました。

サポートメンバーと事務局で4ヶ月に渡って話し合い、文の作成・目標金額の設定と使い道・リターン品を検討しました。クラウドファンディングは約1ヶ月行い、集まった金額はワカモノへの活動奨励金や活動に使う機材の購入費用に充てました。

クラウドファンディングでの資金調達のおかげもあり、今年度のプログラムは無事終了することができました。応援、ご支援いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました！



## Special Thanks

協力 藤沢市市民活動推進センター・藤沢市市民活動プラザむつあい

受入団体 NPO 法人 アズヴェール藤沢スポーツクラブ  
障がいのアナ  
認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構

広報協力 神奈川大学 山岡 義卓先生  
私立大学 柴田 匡啓先生  
日本大学生物資源科学部 小谷 幸司先生  
慶應義塾大学 櫻田 周三先生  
東海大学 藤巻 裕之先生  
湘南学園中学校・高等学校 吉川 謙太郎先生

クラウドファンディングで「活動報告書にお名前記載」コースでご支援いただいた皆さま

那壽子様  
門倉 啓介様  
障がいのアナ 小川 優様  
Ai N. 様  
吉川 謙太郎様  
金子 知史様  
手塚 明美様

## Editor's Note

・今までにない状況で、多くの方に支えられて冊子の完成まで辿り着けたことに感謝の気持ちでいっぱいです。(神藤 夏美)

・この本を読んで、NPO 団体やインターン活動や地元地域に興味を持っていただければ幸いです。(金子 知史)

・主体的に取り組むワカモノの様子やそれを支えて下さった方々の活動が伝われば幸いです。(上野 蒼依)

・ワカモノの記事を担当しました。インタビューではワカモノといろいろな話ができて楽しかったです！(酒井 彩良)

・表紙、イラストを担当しました！この冊子がこれからのワカモノの新たな一歩のきっかけとなると嬉しいです！(中村 渚)

・これからもワカモノが経験を糧に物語を紡いでいきますように！そして、新たな挑戦者も増えますように！(小島 奈々)

・初めてだらけの年でした。こんな年だからこそ！と参加してくれたワカモノ、団体、サポメンに感謝です(西尾 愛)

・メンバーが試行錯誤しながら高い壁を乗り越えていく様を見届けられて、刺激的かつ幸せな制作期間でした。(桜井 光)

地域でつながるワカモノ × NPO インターンシッププログラム 2020 活動報告書  
発行：2021 年 7 月 編集責任：認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 理事長 手塚 明美  
事業担当：桜井 光 西尾 愛  
制作協力：金子 知史 (編集長) 上野 蒼依 (写真編集) 中村 渚 (表紙・イラスト)  
神藤 夏美 (文章編集) 酒井 彩良 (取材・記事作成・デザイン)  
小島 奈々 (文章執筆・デザイン補助)

発行所： 認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢 577 寿ビル 301 号室  
電話：0466-53-7366 ホームページ：<http://f-npon.jp/> メール：[npoipg@f-npon.jp](mailto:npoipg@f-npon.jp)

本書の一部あるいは全部について、無断で転載・複製することを禁じます。  
商業目的による本書情報の利用を禁じます。

